

事業所における自己評価結果(公表)

【放課後等デイサービス】

公表: R6年 2 月 27 日

事業所名: 放課後等デイサービスやってみる

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			人数や活動内容で活動スペースを使い分けしている。	全体、小集団、個別と活動内容に合わせた支援を行っている。
	2	職員の配置数は適切であるか			○	多方面での求人活動を継続している。	児発管配置の求人活動を行っている。他有資格者を配置し支援体制を整えていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		段差など転倒防止などの対策はとっている。	建物の構造上、バリアフリーが難しい。必要があれば可能な限り対応していく。
業務改善	4	業務改善を進めるための、PDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			申し送り、振り返りを行い共通理解をしている。	今後も全職員で意見交換しながら業務改善に取り組んでいく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			今年度も実施している。	頂いたご意見を深く受け止め、改善していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			集計結果をHP、SNSで公開している。	HP、SNSで公開し、頂いたご意見をより良いサービスに繋げていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	第三者による評価は実施できていない。	法人全体で実施に向けた検討を行っている。
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			事業所内での研修をじっししている。	事業所内の研修に加え、外部研修にも積極的に参加し、支援の質の向上に努めていく。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか			○	契約時にアセスメントを行っている。	児発管不在の為、定期的な聞き取りができていない。利用者の現状に合った計画の作成、実施に取り組む。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか			○	統一したアセスメントシートを使用している。	利用者の年齢や状態に合わせてアセスメントシートの変更、改善に努めていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			全職員が参画し活動プログラム立案している。	利用者の状況に応じた内容を検討、実施し、支援内容を充実させていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			月ごとに活動プログラムを見直している。	活動プログラムの振り返りを徹底し、計画の改善、発展していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			平日、長期休暇で活動プログラムを変更している。	長期休暇中は、公共施設利用やクッキングなど平日にできない活動を提供していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか			○	活動プログラムごとに個別、集団を組み合わせている。	児発管不在の為、計画できていない。活動が偏ることのないよう実施していく。
	15	支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			申し送りの時間に共有、意見交換をしている。	活動時の役割分担や個々の様子を職員間で共有、支援のポイントを整理していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			気付いたことを当日中に共有している。	支援の振り返りや気づきを共有し、活動内容の充実を図っていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			記録した内容を確認し、支援向上に繋げている。	日々の個別記録を丁寧に記録し、書き方や表現の見直しをしていく。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか		○		定期的なモニタリングを実施している。	相談支援事業所とのモニタリングで情報を共有し、定期的なモニタリング以外でも利用者の現況や保護者とのやり取りで気づいた点を支援計画に繋げていく。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			複数の活動を組み合わせ実施している。	利用者の特性や困り感に則した活動内容を提供していく。	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか		○		児発管不在の為、保育士が出席している。	児発管代理として保育士が責任もって会議に出席していく。
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			情報は保護者を通じて行い、送迎時に学校との共有を行っている。	学校によって情報共有の違いがある。保護者との共有も含め、積極的に学校との関係構築を行っていく。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○		定期的な検診や服薬など保護者に情報提供してもらい整理している。	現在、医療的ケアの必要な利用者はいない。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			保護者や相談支援事業所と共有している。	移行支援シートを活用し、保護者や相談支援事業所との連携を図り、相互理解に努めていく。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか			○	今年度、該当者なし。	来年度は該当者がいる為、しっかりと準備を進めていく。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			児童発達支援センターの研修に参加している。	今後も積極的に専門機関の研修等に参加し、支援向上に繋げていく。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			交流会を実施している。	今後も多方面での交流を計画し、利用者に体験の場を提供していく。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか			○	参加できていない。	余裕を持った職員体制を整え、参加していく。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			送迎時や連絡帳で情報共有をしている。	今後もその日の出来事を送迎時に丁寧に伝えていくことを大事にしていく。
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			保護者会、個別面談を実施している。	本格的なペアレントトレーニングはできていないが、保護者会を実施し、個々の困り感を発信、共感できる場所を提供していく。	
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか		○		契約時に説明している。	契約時以外でも説明する機会を増やし、保護者の不安軽減に努めていく。
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			個人面談を実施している。	送迎時や必要に応じて個人面談を実施する等、相談しやすい環境を提供していく。
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			保護者会を開催している。	今年度2回保護者会を開催できたが、どの保護者も参加しやすい日程など工夫しながら来年度も計画していく。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			苦情対応マニュアルを作成している。	苦情対応の責任者だけでなく、全職員が誠心誠意の対応ができるよう努めていく。
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			日々の活動はSNSで発信し、長期休暇中は通信を発行している。	今後も様々な方法で活動内容をお知らせしていき、保護者の理解に努めていく。
	35 個人情報に十分注意しているか	○			秘密保持誓約書に署名、個人データの持ち出し等を禁止している。	定期的に個人情報の取り扱いについて職員間で共通理解を深めていく。
	36 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			視覚的な部分から伝達できるようにしている。	絵カードや写真などを利用するほか、アプリなどの利用も検討し有効活用していく。
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○	図れていない。	地域柄、住民との交流ができていない。町内会、学校との繋がりを構築していく他、地域で行われているイベント等に参加していく。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○		各種マニュアルを作成している。	保護者への周知が不十分である為、配布や保護者会での周知など工夫していく。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			長期休暇を利用して行っている。	火災、地震の訓練の他、浸水被害や消防署に依頼しての通報訓練も実施していく。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			虐待防止の研修会に参加している。	虐待防止関連の研修会に参加し、職員間で周知するための事業所内研修を引き続き行っていく。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか			○	契約時、保護者に説明している。	身体拘束委員会を開催し、保護者へわかりやすい説明方法を検討していく。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			食物アレルギーについては、聞き取り時に保護者と確認している。	現在、食物アレルギーのある利用者はいない。今後、対象者が利用の場合は医師の指示書で共有し正確に対応していく。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			作成している。	ヒヤリハット事例集を活用していきながら、事故にならないように職員間の周知を徹底していく。

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

○ 「はい」、「いいえ」の欄は、数を記入するのではなく、職員による自己評価結果を踏まえ、職員全員で討議した結果について回答すること。(該当する方に○を記入)